

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	1月	22日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	檀原市：旧常福寺の観音堂付棟札2枚・表門				

所在地	檀原市今井町3丁目162				
所有者(取材 対応者)名	春日神社(氏子総代・春日講代表役 員***氏)(個人情報守秘)			連絡先 ***	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：檀原市役所文化財課 ***課長				
市町村 指定文化財	彫刻	軀			
	建造物	2棟	旧常福寺観音堂付棟札2枚 1976(昭和51)年12月1日指定 旧常福寺表門 1994(平成6)年11月7日指定		
文化財指定理由	観音堂に残された棟札から1613(慶長18年)に棟上げされたことが確認され、その後修復の手が加えられてはいるが、建物全体の形式はよく残っており、近世初頭の在郷寺院史を知るうえで貴重な遺構となっている。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	今井町全体に地区ごとに消火栓と消火ホースが設置され、各建物ごとに消火器・火災感知器・警報装置が設置されている。 行政・消防署の指導の下、消火訓練が行われている。	重要伝統的建造物群保存地区で昔の町並みが残り、街路が狭く木造平屋建ての建物が多いため、火災に関して入念な対策をたてられていると感じた。
獣害対策	被害の有無、対策など ネズミなどは出没するが、特に大きな被害はないとのことである。	記入者の感想 月に2回清掃を行い手入れされている。街中であり特に心配はいらない。
保存～継承へ 苦勞と今後の課題 と対策	春日神社の氏子(今井町のほとんどが氏子)による春日講、婦人らを中心とする観音講のメンバーによって行事、清掃、保存、管理が行われている。重要伝統的建造物群保存地区として行政の援助もある。ただどこでも同じ課題があるように、講への参加者が高齢化しつつあり、若い人達への引継ぎが課題である。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

旧常福寺は、廃仏毀釈の後も、観音堂、行者堂、表門が春日神社の中に残っている。鎮守社と神宮寺としての役割をしていた両者が今も残る貴重な景色である。今井町の裏鬼門としての役割と民衆の観音信仰の篤さがあったのかと思われる。観音堂と表門は春日神社の境内にあり、その管理は氏子会にゆだねられている。また春日神社は重要伝統的建造物群保存地区の今井町内にあるので、その維持管理も今井町の発展と関連がある。

市町村指定文化財取材票<裏>①

取材日	2024年	1月	22日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	檀原市：旧常福寺の観音堂付棟札2枚・表門				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 旧常福寺観音堂付棟札2枚

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
 <p>内部の様子</p>	 <p>消火器</p>
 <p>文化財の由緒などを記入</p>	 <p>所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入</p>
<p>旧常福寺観音堂は春日神社の境内にあって三間の寄棟造り瓦葺のお堂である。堂内から2枚の棟札が見つかり1613 (慶長18)年棟上げされたことがわかっている。修理は加えられてはいるが建物全体の形式はよく残っている。常福寺は春日神社の神宮寺であったが、明治初期に廃仏毀釈によって廃寺になっている。観音堂が常福寺の本堂であるという説もある。堂内には十一面観音像、阿弥陀如来坐像、弘法大師像、猿像が祭られている。現在も観音講があり信仰されている。</p>	
<p>春日神社：創建年代は不明 常福寺の鎮守社 現存する最古の石灯笼銘に「慶安五辰年仲春吉日」とあり1652年以前の創建であることがわかる。 また今井の地はかつて興福寺の荘園であったことから中世に春日大社から勧請したとも考えられる。</p>	

市町村指定文化財取材票<<裏>>②

取材日	2024年	1月	22日	(記入者) 仲 秀和	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	東辻			
取材対象先	檀原市：旧常福寺の観音堂付棟札2枚・表門				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 旧常福寺表門

文化財 (正面写真)	文化財 (裏から 写真)
	
文化財 (横から)	防火立て札
	
文化財の由緒などを記入	境内の様子
<p>一間薬医門 建立年代は確証はないが1846 (弘化3)年称念寺蔵の寺社改め帳写に記載され、建築様式から17世紀初期を降らないとのことであるから観音堂と同時期に建立されたのではないかと考えられる。</p>	